

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2026年5月

第145号

主な予定

5月27日(水)

10:00~10:30

大津ヶ丘第一小学校

6月3日(水)

13:30~14:00

旭東小学校

6月5日(金)

千葉大学園芸学部

「環境緑地学実習」

6月9日(火)

13:00~13:30

藤心小学校

6月11日(木)

増尾西小学校

6月12日(金)

9:00~9:30

松葉第一小学校

3月29日(日) こんぶくろ池保全活動報告会より

チョウ類のモニタリング調査(2025年度)

「チョウ類は、生きもののグループの中でも環境の変化に敏感であることが分かっており、指標生物として非常に適しています。そのため、チョウを対象に継続的な調査を行い、その変化を調べる(モニタリング調査)で、自然環境がどのように変化しているのかを知ることができます。…日本チョウ類保全協会 チョウのモニタリングマニュアルより引用」。日本チョウ類保全協会がeBMS(European Butterfly Monitoring Scheme)というヨーロッパを中心としたチョウ類モニタリングプロジェクトに参加している。2026年2月時点でチョウ類モニタリングプロジェクトに参加しているサイトは、日本全国では100を、関東で50を超える。当NPOでは、こんぶくろ池自然博物公園の環境を俯瞰的にとらえる目的で、2023年秋から日本チョウ類保全協会の指導を受け、2024年8月分からeBMSのホームページに調査結果を入力している。

方法

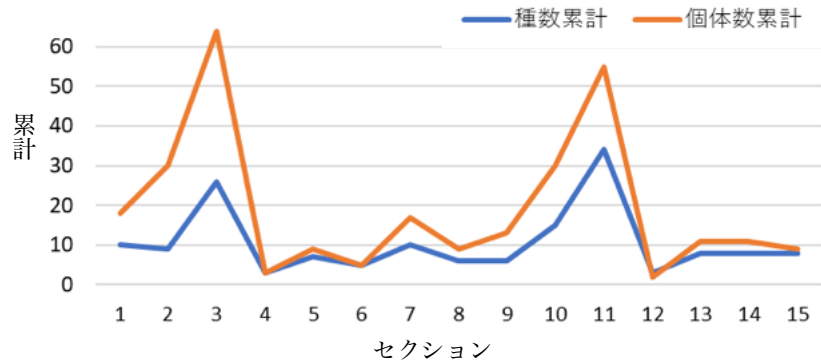
ルートの設定: 日本チョウ類保護協会の指導を受け、30~40分で歩けるルートを設定し、ルートを森林、湿地、草地などのセクションに区切っている(図1)。

図1 調査ルート セクション



トランセクト調査：図1に示すルートを一定速度で進み、調査者を中心に左右5m、高さ5m、前方5mの範囲にいるチョウを種別にカウントし、セクションごと種ごとの個体数をeBMSのサイトに入力する。基本的には定例活動日に2～8名で実施した。

図2 セクションごとの種数、個体数の累計 (202503-12)



結果

セクションによるチョウの多様性の違い：調査日ごとに確認した種数と個体数を累計してグラフ化したところ、草地2か所 (§3:ワタラセツリフネソウ生育エリア、§11:ノジトラノオエリア) および林内を貫くルート (§7) にピークが見られた (図2)。§3, 7, 11で記録した種とその個体数の関係を表にまとめたところ、同じ草地でも、ワタラセツリフネソウエリア (§3) は累計個体数64、種数9 (累計種数26) でありヤマトシジミ38頭が記録されたが、ノジトラノオエリア (§11) は累計個体数55、種数17 (累計種数34) であり累計個体数に対する種数の割合が高い (表1)。ワタラセツリフネソウエリアに比べノジトラノオエリアの方が比較的チョウの多様性が豊かであることが示唆された。また、同じ林内の園路でも、§8や9よりも、より公園の中心に近い§7の方が累計の種数、個体数とも高い値を示した。

時期による確認個体数の変化：2025年3月～12月に計12回調査を実施し、概ね25種を確認した。詳細はポスターに示す。調査日ごとに確認できる個体数は4月下旬から増えた。8月には調査を行っていない。9月6日には、調査日辺り最高値となる87個体を確認した (図3)。

図3 調査日ごとの確認個体数 (202503-12)

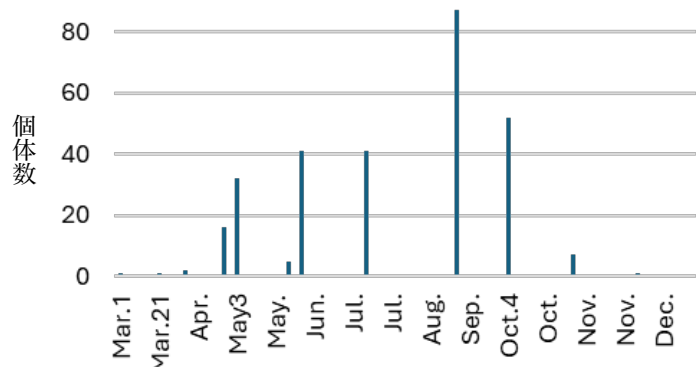


表1 §3,7,11 で確認したチョウの種ごとの個体数とその食草 (202503-12)

科	種	個体数			食草 食樹
		セクション			
		§3	§7	§11	
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	1	1	1	シロダモ、タブノキ、ヤブニッケイなど (クスノキ科)
	アゲハ	2		9	サンショウ、イヌザンショウなど (ミカン科)
	カラスアゲハ			1	サンショウなど (ミカン科)
セセリチョウ科	ダイミョウセセリ			6	ヤマノイモ、オニドコロなど (ヤマノイモ科)
	コチャバネセセリ			1	アズマネザサなど (イネ科)
	チャバネセセリ			2	チガヤ、ススキ、ヨシなど (イネ科)
シロチョウ科	キタキチョウ	5		6	ヤマハギなど (マメ科のハギ類)
	モンシロチョウ	1			タネツケバナなど (アブラナ科)
	ツマキチョウ			1	タネツケバナなど (アブラナ科)
シジミチョウ科	ベニシジミ	4			ギンギン類、スイバなど (タデ科)
	アカシジミ			1	コナラ、クスギなど (ブナ科)
	ルリシジミ			8	ヤマハギ、フジ (マメ科) ミズキ (ミズキ科) など
	ヤマトシジミ	38		1	カタバミ (カタバミ科)
	ツバメシジミ			4	カラスノエンドウ、ヤマハギなど (マメ科)
タテハチョウ科	コムスジ		1	3	フジ、クズ、ハリエンジュなど (マメ科)
	イチモンジチョウ		2	2	スイカズラなど (スイカズラ科)
	キタテハ	6		1	カナムグラ (アサ科) など
	ヒカゲチョウ		7	6	アズマネザサなど (イネ科)
	サトキマダラヒカゲ		1		マダケ、アズマネザサなど (イネ科のタケ・ササ類)
	ヒメジャノメ	1			チヂミザサ、ススキ、アズマネザサなど (イネ科) カササグなど (カヤツリグサ科)
	コジャノメ		5		チヂミザサ、ススキなど (イネ科)
ヒメウラナミジャノメ	6		2	チヂミザサ、ススキ、メヒシバなど (イネ科)	
	個体数合計	64	17	55	
	種数合計	9	6	17	

文責 上田 真佐江

ヤマコウバシは不思議な木

橋本谷 弘司

クスノキ、シロダモ、ニッケイ、ヤブニッケイなどクスノキ科の木は常緑樹が多いですが、ヤマコウバシは落葉樹です。秋には紅葉し、春先まで葉が落ちないので、受験生のお守りになっています。

ヤマコウバシは当園には10本以上あると思います。4月頃に小さな淡黄緑色の雌花を咲かせます。日本のヤマコウバシはすべてが雌株で、雄株は有りません。しかし、不思議なことに秋には黒い実が実ります。

どのようにして実になるかは解明されていません。ヤマコウバシの花にできる雌しべの柱頭を取り除き、受粉できないように処理しても、しっかり結実するのだということです。

大阪市立大学、大阪府立大学、東北大学らの研究グループが東北から九州の山野に生えるヤマコウバシのDNA情報から1本の雌株から生じた巨大なクローン(遺伝的に同一である個体)であることを発見しました。この研究成果は植物生態学分野での国際的な学術雑誌であ

る『Forests』に2021年2月16日付けでオンライン掲載されました。

研究者のコメント。「ヤマコウバシは冬枯れの山野では目立つので見つけやすく、受験生には見つけたらぜひ、願をかけて頂きたいと思います。日本全国、どこに生えているヤマコウバシでもご利益は変わらないと思います。なぜなら、全て同じ遺伝子をもったクローンなのですから。」



樹形



雌花（松江の花図鑑より）



紅葉（11月下旬）



実（10月上旬）



冬枯れ（3月上旬）



御守り
(宇治市植物園より)

新入会員紹介 小西 彩音さん



参加動機：自然に触れることが好き。家から近い

趣味・好きなこと：生き物を見ること

貢献できそうなこと：公園整備、調査（動植物、鳥など）

取り組んでみたいこと・分野：生き物、植物の知識を増やしたいです。

ひとこと：楽しみです。よろしくお願いします。